下総国

三

内閣文庫

狭衣下　初第三

一　[illegible]

口傳　源氏の家の[illegible]

一　[illegible]

一　[illegible]

一　

一やまの川原　北方寺　未勘

一ゑびすの社　法華堂世ゝるべし

一宮やまを　湯のゝく法養性也　俗ゝ日やまと云ん

なるべし

一阿私仙人　ゝく月の法師と云作し釋尊因位の時

大士として法の為に位を捨ゝく阿私仙人に遇

て法花経を云給へるうさて千歳の間業摘水汲

て仙人を供養ゝ紙ゝ仙人をとの拾波也

一ゝ月ゝ　引寺　年をゝる波ゝに遇るゝハ拾ゝ波

乃波まされとや　和列ゝ

一あるとゝの　光ゝ乃引乃也　池の玉藻とハ

猿澤ゝ乃柳ゝ　ゝんゝ

一恵美　法ゝ乃ゝ乃也

一秋宮　女三ゝ也

一最勝院　女一ゝ也

一やゝゝく位者乃置

一一ゝ　源氏ゝ

一ゝ乃ゝ　ゝ波ゝ

乃と国人ゝ乃ゝ

一おゝゝ

一さゝ院ゝ　入道の法門ゝ法ゝ

しゝて乃ゝ女二ハ　ゝ法ゝ也

みづからとはさげ髪のもの

一うれしき事 かくれあるときてを女にはいうやうに
なりがゝ申べきもの

一めさし

一ちりはめ 女にょうぼう吉統とも ぶん殿様ようき
給へり

一かうのこはめる 是うるとは入道のうへの法ゐん中ゝ也

一まことのなりまゐれんがうき 母うへのほんを思食也

一うれしき事 母うへをもてなくあるとは入道うへあるゝ
へ行へ居ゐうれしとも也

一あるゝのよは 若ゝしの北ゐり一ゑの髪のあるゝめにあ

しづかられも

一はしりはは中納言のさゑへの法ゐをもてなんじ
てえなりまゐ先ゐ

一なりはさるべし 双子堀し

一まことの法子 廣まさ実の法子ぶやはなりがゝめさ
ねども養母のはためにはさとしあるくよかうんと廣
乃法子ぶやどもとて養子のはゐるゝへし

一母は 四ゐ 実の母とは法ゐをしとも 堀川廣
いひ給へるゝ中ゝ為家卿 天てゝ廣
の法子ゐゝくはゐれ法ゐるゝんとも

一さゝ乃家と 去改 後一条院法皇 一条院 女院きさいの

一おなじくのゆうまと　大政大臣
一ひのかのく　光ハ堀川殿也
一うやうの法きしさ　天子の法ゐる事と女院の
法號じ　ひのく故院崩御　已後ハ花ゐくしまうゆと
四名入ぜ乃宣堀川殿の給ふ　うんハようんん也
一ときさう　堀川殿まゐ　あくぜ兵女院の法ゐる
まうて出ぬて　ものをらるる也
一四海おとうけ　天子　てそ　白　ものふ
乃御ようぶ　しめ　あらんを女院のもとへ出て
ハいうぐう也

東院上　堀川院ノ御子　今ノ天子養子

一さんくうけう
一清盛　くくく　さ家へ給らるる　親也　女院して
天子仰らるる　と虚空也　いれ　の法ゐるもと
くうさ家乃詞也
一まやうけ人を　ものさる紀ようの　鼎ゐるぐ引ゐ
乃給ゐ　今　邪ゐ共ゐ　ゐくゐ　ゐるぐ
けるまうと　出紀也　ゐ　ゐ　ゐ
人とゐる　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
一まゐく　次くゐ　ゐ
一まさの馬　牧ゐ　ゐ

東院上

一かりんとう　毛繁とて上野也
一つゝべさゝとゝ　い面姫君の人也
一ちゝび絞　さゑ法出の時いゝくゝとそゝきちるこそて
母代服立しる色
一かりまゝ　さゑよりあんうの人ちる帝と東宮の
うへあ行ひしうと今姫君まれゝ必ゝ行也
あゝとゝ　紐ゝゝ
一吉野川　あふ人淵ゝいと也山人ゝの人ちる名
のゝあゝれて　あゝ母代ゝ帝とそはゝ吟じ出ゝ
ゝり行ゝる様まゝさゑのゝ人也　ゝ人ゝ乃志めゝ
やうみあゝりゝん色ゝまゝくさゑゝ乃ゝ人ゝ又帝

一新ゝ地ゝうへゝゝ
一吉野川ゝうへゝゝくゝ　まゝさハ又也　源氏東橋ゝ
さゑ又ゝゝ新ゝゝさゑの等新ゝ　さゑハいとゝゝ乃
ゝゝゝと我ゝゝゝわゝゝゝ行ゝり
一旅よへゝ　とゝゝあるまゝゝれば一ゝゝゝん
とゝゝゝし行ゝり
一ゝん結とゝゝゝ　ゝゝあゝゝとゝ肱ゝてはゝめゝ
ゝゝゝゝあゝゝゝゝゝゝゝ弟ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝしゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
たゝゝゝゝゝ
一ゝゝゝ　ゝ者
甲ゝ人ゝ

一家に一編よろうんのこゝろをもつぎめさだとも
書法ん書ごうとも

一名のもとゞうしさとし

一女院うゝ　東院のうゝ　乃法ん也　時くおもうう
とは　とは　あるよりのこゝろをひ法さあ間うもべぞろ
ものうたとゝ云也

一あめつちを　綾ゝ　未動
一絵よ　黄代　柳　撰　書合ようをざめれば　礼
うゝとも　不失　絵　えゝ　入るごゝく
也　源氏　表　撰　ある　河也
一ゝ法ん乃　母代のんとも

一よのつゝ　さ　ゝ　ゝ　ゝ

つるぎなどをきり　むのありうは楊貴妃乃ちるのまるべし
一おびあるしうしし　懐姫ものぐるひ水よ入んのこと
くしたれとも也
一ちうう　百目也
一人のあるじ　引手　人乃親れんは閑りあるねども
ゑ鏡ゑ遠ゑ道ゑりまどひあるゑ
一遠山島　ゑぐそてあるんや
一あるりさうりく　源氏ものの巻よある物也
引手　まるまたぐ　蔵ひりのゑ乃ゑ　曉ゑあるくは出る
はな　定家
一秋の名も　さ夜のあくうれんるるべし

一云何　女の身　速得成仏　提波羅也　舎利弗　龍女
ゑ弟して五障の女乃分をしてまるやうに仏ゑ如
るあるまりさとの仏ゑる河也
一ひのうとの嶽と云山　仏者のあるひ所也
一大阪大尼　はは地ちうり
一ゑるひう　摂川　廃はせとと　東流のうへうるる
ゑうう
一ちる　此字　天下ハ　ゑ　ゑ　と　ゑ　ゑ
一浦かうゑ　ゑるあうゑうじをりゑの所ゑハをゑ
ゑとのあるゑし　ゑをゑるで浦ゑとあるう
て西国の寺領と也

一月日ちこれと　和殿　一条殿
女院　後一条院　母　太政大臣　女
姫君　後一条院　妹の姫君也　一条院
女院さ衣のはらくしの　姫女　花香井　君殿を
養ひたてまつり
女房　なにとはなくてわらひたるとも
一かたくなの心ちする　決定しおうぎをうち一ふりあへか
物命婦してはなを通しなをす
一一条院　一ふり　花香井　姫君を養ひたてまつる也　一条院
おとしまうさ　若宮のまゝ　一条院と女院は里内と云
一ふくさてん　中物語　姫君　さ衣　三ふ　秋のうち

一やうやうさ月ニ　まの前のやうにはあやめ　梅花
見てはあやめ　ふかくはなるべし
一指大納言　左大臣　一ふへ人　多ふ
一中納言君　母　侍乳母
一大納言　ほうらうの人　大納言
ちうし　後大納言　はきち紀　大納言
ありをとらせ
一ふふく　君　さハく　ちゐさ　さん人
のやうふとあり
一ふくびうあへちん　あそあんの酒　はと
云ちうべし

一ありはやる　月をうらやめあげつめまさめをきくうら
魂ぐりもてめれ衣をさくること
一されだるあそ　あつかりと　城川夜の法ん中ちるべし
一ふるうきうら　さハ
一ツ世の海うり　約もて　あまれけちまやんひとつを
宝うりめる
一ぐふ又ふ　へ通文とハ　仏とやうん自他法ん　ゆうき
ふやうちううみ一ふ　ふの文あどハ　ちとやさて　辰
又ふるうとし　上下略
一ちんうのあとちと　へ通の文乃法んや
一ぞけはし　ぞあうう可　拍子うと云わ　別名

武家筆　横又ふる　紙女あうう　紙ありぐうに　或
時又　二　軍　降るう下又小女あり　を　養又　貪
女又孝あうて　狩を　摘て　を　ゆう　孝　法
紙　啓又　尺むさと　ばふ　ふ　養母　孝　あ
ふ也　私　ば故事　ふ　母　只　又　物の　叶　ふ　ふ
一ふうとぐう　面の　漏め　紙　法　て　ふ　ぐ
と　ぐう　ぐう　ん　ふ　ぐ
一ふ　木の　ぞ　拔　衣也
一ふ　ぐ　梅　み　て　文乃　紙　入乃　文　人　作
ふ　也　ぐに　ふ　と　ハ　へ通　文　と　を　自　他　法　ゆう
ぐ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　也

一あまの屋に傾城の揚屋と云紙をあらためて世をばくらす
一さくらふきるたることも侍らもて　いくばくもなく侍
きりさのたてく侍らさらうとも
一ちらぬべき　むらし抽後あるへし
一ぎふさくて　ちるのかさめの好みとかぐ先
さきんぐちかるあれども又とうちうち
侍らんも
一いとうしいける　あつまけるるとんるを切べし
さきてきんぐ
一みぐるのはたにあれとやうとやと禁
りくさくちびるに関の戸とを

一ぬべちくそも通とも
一くくまぐちくく　むらしよ云あり侍ふとし
さ衣のたくたにありひくると云ちん菊を今
も国んとも
一いひむくあり侍ふ　ちくみんし
一ぎたに詩ふはたきくのあ引寄侍めども独にあまく
ぬ白むかんとみめめの源也くり亭
一ひちくく　寄ぬ山を明し一忍の文のくまくめく
来あすハさくせ侍ふくく云也
一おれかくく　後衣也
一夏くくく　ちくれ寄須也面白くしとりくハん

しよりぐつしさとも　あくのごとくこれあり
ハあるまし　さとや
一下萩乃葉　さえ日ぶ　月は命れあるとても
とちらへ　まとまを　ちらはきあうて　来あ風乃ち
どもとをらきあ　ゆや
一夏月ハ　秋とちらく　ゆへ風の　まあくねとる
あちくこあは　ちくまて　ちくとも　なまちへりの　ちと
うけくちちへし
一接ぶあく　一ふの　ちへまつ　ちひくくたの　はへも
一ちへの　ぬくう　ちう　ちの物　清あるべ
一うにの　ちたを　ちへ通　ちへ　ちへ　ちへ　ちへ

ひのちへも
一世ちへて　ちへ　一ちへく　陳氏　ちへ　ちへ　ちへ　ちへ
一ちへく　ちへ　目　墨と　ちへ
一ちへ　ちへ　引　ちへ　ちへ　ちへ
ちへ　ちへ　ちへ　ちへ　ちへ　ちへ
一せへ　ちへ　ちへ　ちへ　ちへ　ちへ
鉢　立柱　青　苔色　紙　数行　書　官三品　筆と　紙とハ
天の　時　ちへに　ちへて　柱と　書と　ハ外　ちへ　雁と　ちへて
一ちへ　ちへ　ちへ　ちへ　ちへ　ちへ　ちへ　ちへ　ちへ　ちへ
一ちへ　ちへ　ちへ　ちへ　ちへ　ちへ　ちへ　ちへ　ちへ　ちへ
一ちへ　ちへ　ちへ　ちへ　ちへ　ちへ　ちへ　ちへ　ちへ　ちへ

乃うさ

一あるよのぜう　大ゑの狩　大ゑの狩

一はりはしさや　業ハ一条院一ゑのきさきの御やしんのうにたて

たりハはりも黄てとしうるうさぐうまるぶ屋とそ

一まろ〳〵　一条ゑの御ときの浅茅ゑのにはしんとも　今もそハ

一ゑへのゑ院をうまつくりはりめすそ　遊園院にこの

一面ことに　八道ゑ紀時ゑ　さ衣帝よりかれゑ

一まろ〳〵ゑ　ゑのうのさはあり　ゑ紀ゑ乃れ母也

一ゑ紀ゑ月　一条院女院一ゑ乃れ母也

一ゑぐうゑ乃ゑ院　引帝　秋萩をまろうみあるて　鳴舞

乃月よ八乃ゑぐて　ゑのゑ　ゑくのさう

ゑく月ゑ乃ゑくれゑうゑ

一ものもかゑまぐう　伊勢ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ

ゑて帝ぐうゑ

一ゑをつゑもあて　又はゑうゑあるへきにあるて

紅つゑ花つゑあるゑもゑ入ぐ所なるべ

一ゑ茅を花うてゑんゑ白ゑゑ乃はゑゑ

一ゑとうゑゑゑ世代　独位ゑてはんあぐあぐさ

ゑゑ

一ゑのゑぐさゑんも　又八道の衣ゑ乃ゑはゑあゑ

一さぐうゑあゑ　八乃ゑの衣乃ゑゑ

一宝八湾ハお巻の帝ゑ　八乃ゑ乃ゑう一ゑハとうう

行くことも定の八幡宮可 勅又義公官方ニ勝給ヘ分ダニ深義
一極楽にあるる 冥思ヲナシテ勅ナル給ヒシトモ
一いやさだられ 高よめ行くるーや
の彼を八方宮
一あるるハ 大方あるく 行くるーどもあるる
ーやをもるもやさは いへども者ちるて八人
ちるばと 行るやを
一くやしと 彼をら剛ーとかげめきんし
一びをあるくあるく 根ぬーを行ふをかさる
いさるを人をあるんるや
一三台野ハ 山のあるさ 宮もど俗世の憂ぬ

ありとも
一 ものハ法世ちまたやもろ屋ハ燒乃 燒燒長版
ぞ燒ちまうん
一 八重ゝ山の 引奇来歌
一 思ふ歌 かゝれあるし さ長
一 あをうもあゝく 行歌
一 ゝ長ぞう 八重の長ちまぞし又一ゝ長歌
一 ゝりあこ歌 人あ歌
一 かゝくゝうゝ長ゝ一ゝの長乃ほんゝ
一 ゝ長あゝゝ さ長のんゝゝれ長ちまゝゝや ぞよ
一 うゝゝゝしゝを同

一 ゝうゝを又ありゝぞゝゝ ゝんゝゝれちゝ一ゝの長乃
ほゝや又ありゝぞ歌人とハ狩長ほをさゝそ
一 ゝ長ゝゝゝ ゝれゝうさ長乃ゝちゝぞし
一 ゝゝ未あゝゝに歌あゝ中ゝ
一 ゝぞゝゝ未あゝゝに歌あゝれゝ長ゝ歌の
ゝゝゝ歌ゝを歌 ゝんゝゝを死苑省の字
ゝゝを中ゝゝを苑歌
一 院あをかゝゝ 女院ゝ長の所ゝとハゝゝゝ
ゝ歌ゝゝゝゝぞのゝ長作ゝゝを ほゝゝゝ
ゝゝをハさ長の須也 女院ゝ須也
一 何久 女院の法網ゝ長あゝをゝゝゝ作ゝゝを也

一番ゝはゝそでゝく　佐久間の殿も　佐久間の殿也
私　女房乃殿ゝ也の殿乃殿ゝ也
てゝと義あはゝくゝひはゝ　はゝ義也
一ゝ殿ゝ　さ義の殿ゝと云ゝ殿　女房ゝゝ殿
ゝ也
一あまゝゝく　あまゆゝ　佐久間也
一はゝゝくゝあゝくゝゝゝゝゝ　さ義のん　殿也
一又ゝゝに　女房の殿ん也
一院乃殿ゝく　さ義ん　さもあどゝゝ白わきゝゝ
ゝゝゝく女房ゝゝゝゝゝ女子ゝ殿ゝゝゝゝゝん殿也
一ゝゝゝゝゝゝ　女房すゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

みゝゝさ義のゝゝひゝゝゝゝゝゝゝ　さ義ゝゝゝん女房ゝゝく
の殿ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

一ちのもちゐる女をば母　さ衣乃御一女なり
一ゐ殿さて　さ衣と例おくるゝ源尺さち
ゐ也
一さゝをハあるべちち　八通文はさ殺弟敦活宮納
とも　かゆゑあるべ宮ハ是年て勇也のくれがく
ゐまけるめれさぬおりゐ奇あり　ゐとゐ後
ぐ氏八人宮ゐ　弟行ゐ時也
一八通乃ゐゐ　お敦俊活殺あひ伯ちゐ
時乃ゐ也八通の宮とあひしゐ八宮ゐ也
ゐべゐしをゐ也
一ゐ　みくゐびやとハみくゐぬと

一ゐて　ゐ殿ゐ殿ゐ也　一ゐ尼衣を必ゐ殿ゐ
一殿ゐ　ゐ殿ゐ
一小宰相　弟敦俊也
常盤　尼ゐ小宰相　一条流の女流の官女さ衣殿く
地の殿ゐ人
ち門寺ゐ姫ハあるべ
一姫君　さ衣の母ゐ　殿ゐ殿ゐ殿ゐ

を見ては悪心を捨てる事也　悪心を捨てれば尾まで成ぐ成ぐと云事也

一度の中　堀川殿の事也

一毋　賀茂へ大社詣の事也

一志の人　源氏を慕へる人々の事也

一蜘蛛　浮線綾

一ねぐらを　一番の猫を忍ひ入て行事

一鼠なを　引手数

一ゆらをむすび　一番ときさ成事也

一物の者　源氏を慕へ道也とをんと常に

一仏　堀川殿

一乳　一番多く集まるをんなの時を源

氏を慕へ人のをんなをいとをしんと也

一七僧　七人僧供養也　源氏を慕へ俱舎花厳也　盛後師

一ふくろ　死ぬる

一吉野山　あの方の中の事也

一もくず　死ぬ

一ゑ、ゑ　山後藤つるを自水ちる也

一塔如金色　経阿鼻獄　東方八千世界の光

如金色　法花序品の事也　法花経を流布しんと

ての弱相の中也　仏乃百毫相の光上至有頂下

至阿鼻獄　也

一仏　善悪の移り代りて世の有るべし

一毎のめうしハいとくとも　ちうとゝん也　侍の例
たるべき也
一あとの系を引　若紫　藤の末葉
ハさてもまんまとかたらしに　私ゝ所とハ十ゝりの表
ともゝ　ゝみ毎ともくゝ　るハ　やきん　花海沢
一方張毎のむ　奇　くれなゐ
一ゝりとゝ　ゝん　さ紅の所　奇　浪深　ともも
一あんちん　此絹此物語　よりりざあらんとゝ云ん也
さて一和ゝゆくゝ　ゝり給へゝ　とゝくゝ　ゝ所
ゆんりてまゝ　ゝりも也
一うまゝ大口

一さゝゝゝ

一さて朱雀門の前　さ衣の寄也　源氏は紫の乃面
紙也　をとゝの初　投こと　けつ　ゑ　春よあるものちとへし
一つゝ　門　　源氏　　ハ源氏なり
一をれ　　根紙　一可
一ものゝ　　ハ　　対面　　ものゝ
り　時　　ものゝ
一ゝ　　れ　　ん　　ゝ
し　　ゝ
一ゝ　　ん　　人　　人
ゝ　　ん　　ゝ
ゝ

一そと軒　さ衣の内侍　車　ゆ
ゆ　　さ　　ゝ　　ゝ
ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ
ゝ　　ん　　ゝ　　ゝ
の　　ゝ　　ゝ　　ゝ
ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ
一ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ
一ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ
ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ

一ゑぼうし　ゑぼうしハ　天子のけんもつなり

一ゑぼうし　ゑぼうしの法ハ　あさ衣をしたがへて

おなじくしゝうとも　おなじさまなるハ　ハせんとも

でんあくとも　ざうれあんの法とも　殺生の

一ゑぼうしの　ゑぼうしの法ハ　まことに　ゑぼうしの

とも　殺生禁断の法　なり　まことに　ゑぼうし

おなじくとも　ゑぼうの法なり　ゑぼうしの

一ゑぼうし　ゑぼうしの　大ぜとも　ゑぼうの法なり　ゑぼうしの

一ゑぼうしの　ゑぼうしの　さ衣の法　ゑぼうしの

とハ　ゑぼうしの　ゑぼうしの　ゑぼうしの

一ゑぼうし　おなじ殺生禁断の法　ゑぼうしの法

とも　ゑぼうの法なり　ゑぼうしの法

一ゑぼうし　ゑぼうしの法　ゑぼうしの法

ゑぼうしの　ゑぼうしの　ゑぼうしの

一ゑぼうし　ゑぼうしの　ゑぼうしの

一ゑぼうし　ゑぼうしの　ゑぼうしの

しも　同じゑぼうしの　ゑぼうしの

一ゑぼうし　ゑぼうしの　ゑぼうしの

ゑぼうし　ゑぼうしの　ゑぼうしの

一ゑぼうし　ゑぼうしの　ゑぼうしの

一ゑぼうし　ゑぼうしの　ゑぼうしの

一志のぶともぢ　おの寄りあると
一あくがれ　ものとうとまとやものあらに結
あがあられあばとも
一家の中将　後式部　のちのきぶ　このはこ
家中ものいとうとの姫　さき長乃は佐の時一家
とうとうなり
一家ぬうう　さ長のあがめ外ぬ長乃ひとく
人きこびものひあいうハあくま中ものの姫乃ゐ
也中ものの姫
一あ乃　妹の方りむまひ為まりきとも
家の中ものの寄し

一ものじとそ　ものさ為ゐハあるまじ乃れども
ものがりてぞもぢ　ものさあんとも
一つとも人り　引寄事歌　ものけお
の寄也
一ものう　元ぢ為ゐそは通せのんゐものあれ
とさ長のゐらるも
一きこ人ゐ　姫也
一志の社用
一ものまふ　さ長也中ものの姫を宮こ也
一人ものひ為ひを去ぐ乃んあるとく
也為よとうむ人を法しても

一さ絡られ入野の薄 秋風靡くなり
うもん
一さ風くれ佛覺の中 ゆもは年 沼絵ちど 働くこと
一まひくとともあびくるよゆゑん 好あくしも 秋風
ゆもとハまくへ 結ぎ紙さ袁の みを行くるとも 袁
中 拾遺
一をもあくく さ袁のとくちくはんあぐる 同
袁もとゆじうも 同人の 奇
一文ごあうぎ 秋萩をくぐる風乃吹ぬれば人の
んもいくぐ やくぐ 後撰
一竹八中 竹うれ 靡ぐさ袁へハをれを 宮ちんと

一ちくにおりひみぐうるくさの薄 ゑぢのあうとハ中
おのはくへられるかとも
一中ある八中ある紙妹よ行くて也
扇ともちらてハ八をくれごともとも
一ちく 妹と一方りはくまくりのみとの也
をぎにいくりけるかぐ三戸也
一はぎ花のまんぐ 源氏物語の巻よあり 紅檀
法花經少その莊嚴
一袁のもくべ
一大井川 おもをの八ちくくあ年毎そも 志賀ハあも
一及見佛功德 壁喩也 法天仏を 供養ぐ

ちなく廻向の文也　我不有福業　今世若過世
及見佛功德盡廻向佛道
一文を佛の　為文乃法縁也　いざかちゆんと為
宮也
一ちりちりハ　若宮の神ちり　さめ紙ふすて句
一ちれを祝ハ　かりしとものあるまハ不動尊
りりんちんとも　へ通文不動へ向てかりまん
西のまとも　さ文の作ちる也
一如をこの　お物語ちるべし
一ちりられも　掛絵ちるべし
一乃ちみも　ほんぢにきあまへる寄也

一藤ちと紀　さ文寄也　尼といちんあも
一ちふ出ちあ　ハ物語りの紀也
一神ぬちれと云　古物ぢりあるべし
一ちちちれぬ　入道文のハ年ちし
一んちちく　源氏乃文へちり
一八千ぬちく　ぬ乃ハ　ちあまとあり　株乃
のち　八千ちりちあまハ後悔　さる附ハちあまハ
紙のちちあほ　紙を悔　立ちちし
又立ちりひそ　ちもちれ　ちるもちれ
ちりちんちハ　死よあちんとちり　さ文ちし
一後のせれ　通ハと　後の世れあちあのまんとも

わたあらそふ心なをとうざりもなれども也さ紋奇也

一まそきこゞ心のこゝろ　はざゝみとさ紋とせよ爲紋

ざゝもんは通世乃あゝまゝゝみくゝろ月日とも

一ゝるゝとかゝり　はれ通世乃るゝもちゝべし

一あぐゝろゝ一の　ぬゝゝのゝみとあゝゝずゝゝゝゝゝゝゝゝ

のゝとゝに情ゝゝゝゝあゝゝゝゝとも

ゝゝゝゝゝゝゝゝ

一切ぶつ者り　かてれあり　さ衣のうへ　さ衣の文字ハたゝうも也
一あうり　さ衣のうへ　ひかへうも也
一ゑすがのかきりも　はれみのくもゝ也
一切のゝさ衣うも　はれ通せのうも也
一はれ然野ゝ　ゑ歌の　九づくまはぐら　ゑ歌まうも
ぐはぐせられ
一風の　ゑ歌の
一世界不宰国　隨　乾功德　乾功德　法花一念信解
功德の格量ゝ　小乘　常　法門を　説て　阿羅
漢の野　成　世界不宰国　如水沫泡　猶

一大井の物語　物語
一世やはぐくみ　引　奇　源のりうくらりゆく
ぐくめれバ　井　源のりうくらりゆくハ
一ゑ野の　ゑ　たらん　對
一院を　ゑ　ゑ
一ゑ　ゑ　源氏ゑ　源氏の野ゑ　ハさ衣
一ゑ　ゑ　ゑ　

るますぐるり源氏の文ハけんとゝ書あるゝ
一あをすらぐもり　あをの奇也
一むらくもん　琴　奇特ある也　鬼神もてる
源氏よりあり
一はくらく莊嚴　はくとゝ月く神仏を尊ぶ
連歌　猿楽乃　純ちゃくとも　はくに味はひて也
論義乃　義乃　経ちゃくなる　文の法華也
一まくらも　屋乃綱也
一大白牛車　法花一佛乘に帰り
長者ハ釋迦　如来　法乃　樣の舎利
弗等の　所也　大宅ハ法華也